

徒然なるままにでなく、忙中に閑もないが、思いつくまま とりとめないことを書き並べる。

- ① **北朝鮮をめぐる情勢** かくも急転直下に事態が進むとは誰も考えなかっただろう。安倍政権の慌てようは想像に余る。米軍基地に翻弄される沖縄の人達はどうみているだろうか。予断を許さないが、両首脳と世界中が期待するように事が運べばと願っている。米韓合同軍事演習をやめるのがその第一歩である。たださえ異常気象と地震に怯える地球から 戦争をなくするのは不可能と思っていた。トランプ氏を資本主義の権化のようにみていた、軍需産業を背に軍事予算は増える一方、傘の下の日本も疑問を持たずにその流れに乗ってきたが見直すときがきた。これを機に中東やアフリカの紛争も当事者が考えを改めればと思うが簡単なことではない、今日図書館で文芸春秋 7月号の冒頭記事 立花隆の「三大宗教の聖地エルサレム」を読んで頷いた。
- ② **粋人の雨** 先日、丸善で岩波の「図書」6月号をもらってきた。表紙を捲ると、ドナルド・キーンさんのエッセイ『雨』があり、氏の感性で梅雨がお気に入り、さすがと思った。
- ③ **パーシモン** グラウンドゴルフを始めて2年余りになるが、後入り仲間に追い越されてクラブの所為にする自分がふがない。長年のゴルフでパーシモンヘッド・ドライバーの打球感が気に入っていたので、GGのクラブもパーシモンを選んだが 始めてから気づいたのは、100人を超える大会？で外見は様々でもパーシモンを使ってる人は皆無、ムクのヘッドはスウィートスポットが狭くてミスが出やすいのではないかと思う。それでも、パーシモンにこだわって使い続けるつもりだ。
- ④ **プリンタの進化** 30余年前のインパクトドットプリンタからみれば、インクジェットは隔世の感。殊に個人の文書や写真印刷に欠かせない存在である。複合機でのスキャナが便利、PCとの連携で多様なフォントと印刷スタイル、写真の発色も言うことない。ところが、最近の機種は機能の複雑化でセンサが多いのと、用紙設定がPCと重なって余分な手間がかかり、トラブルも多い、「過ぎたるは及ばざるが如し」である。本来機能に徹して丈夫で長もち、簡単操作のユーザーニーズを忘れないでほしい。
- ⑤ **写真の楽しみ方** 地元シニアクラブの写真同好会が3年目、たった5人であるが1人は全日写連で折々入選するハイアマチュア、それに次ぐのも本格派、(下の)2人はバカチョンを抜けた域、僕はその中間。月例会で自薦作品を持ち寄って批評しあうが、往々にして上位2人のコメントが拙作に集中するのが面白くない。僕は時間と懷を睨みながら、コンパクトカメラで分相応に写真を撮っている。リコーフレックスから始め、露出・ピントがマニュアル、銀塩フィルム時代からのカメラマニアで多様にカメラを使ってきた、我流に徹して楽しもうと思う。
- ⑥ **四国のこと** JR四国の駅表示や車両のベースカラーが水色で薄呆けてみえる、気動車がゴォーと音を立てて走る。四国は万事が時代遅れでヤボと思っていたが、四国を知らない者の偏見であることが分かってきた。瀬戸大橋が架るまでは対岸と離れていたが、今 高松と岡山は通勤・通学圏である。快速マリンライナー上下38・39本が備讃瀬戸を経て1時間足らずで県都を結んでいる。(新快速で大阪・姫路とほぼ同じ) 兵庫、広島よりもお向いさんが近いことがTVニュースからもわかる。

私の父方先祖は徳島の出身で幼少時に祖母から‘阿波の十郎兵衛’の民話を聞いて涙を流したこともある。だが、今の徳島についてはLEDくらいしか関心がなかった。県域の大半が吉野川流域で、三
大
河
川
が
流
れる
岡
山
か
ら
み
れ
ば
風
土
が
多
様
性
に
欠
け
県
民
性
に
も
響
い
て
い
る
と
思
っ
て
い
た
が、その偏見
が
変
わ
り
つ
つ
あ
る。

昨秋 四国遍路を始めてまだ序の口であるが、折々お接待を受けた体験から四国人の優しさと素朴さ
が伝わってくる。甚だ不真面目で気儘な遍路輩は般若心経も唱えられないが、すべての宗派を包む鷹
揚さに弘法大師の偉大さを感じる。寺院建築と庭、周囲の環境が多様で、お寺の梯子も捨てたもので
はない。そんな気で遍路するのはちょっとおかしいのかなと自問する。

十番までは多少の坂道があっても拾い歩きできたが、十一番から十二番焼山寺へは名だたる難所「遍
路
こ
ろ
が
し」である。先月 行程の 1/3 を長戸庵まで歩いて引き返したが、身の程知らずを知ること
になった。80 を越えた遍路は体力知力ともかなり衰えていて並みの山歩きの考えではおぼつかない。
サバイバルを考えながら 10g 単位で荷を軽くする、自身の体重も減らす必要がある。道半ばの柳水庵
で以前は泊まれたが、今はアップダウンの 16 km を宿なしで歩かねばならず過酷である。早くも前途不
明、挫折感さえも胸中を去来するが、1200 年の歴史が漂う山道を諦めきれず生涯最後の試練に臨みたい
と思う昨今である。(おすすめ：先ずは「四国遍路」辰野和男著の岩波新書を、天声人語のコラムニストで読みや
すいが 20 年前の内容である。「後期高齢者 四国遍路を歩いてみれば」は 2 年前のもので実際の。読む遍路もありだ。)

⑦ 忙と閑 梅雨前から庭の草が伸びて、生垣ごしの人目が気になる。

アジサイが鮮やかさを競い、鉢植えを並べたゴーヤの蔓に第一号の実を今朝
見つけた。小学生が 70 人ばかり前の歩道を通る、朝は整然と、帰りは三々
五々に仲良く話しながら 中には大声でわめく子もいる、元気に挨拶する子
ども達と顔見知りになるのは得難い喜びである。

庭仕事のあとお昼にビールを飲み昼寝するのを年寄りの特権と自分で言い
ながらの日常である。月水金の朝 2 時間半のほかは空白の筈が結構忙しい。

夜は PC に向かう時間が多い、メールに返信するのをその日のうちに、フェイスブックは発信しない
が煩わしいほど入ってくる。TV は 7 時のニュースとブラタモリ、BS プレミアムの‘イッピン’を
見るくらい。図書館で借りた本は期限があるので気がせくが、出費なしに拾い読みできるのが有難い。
県立図書館は 1F 16 番棚に遍路・巡礼書が数十冊並び、2F には広範な科学書が 電気雑誌 OHM もあ
る。新聞は販売店に頼んで朝日を土日だけ、眼が疲れて読むのが遅く、連日だと読み残しが溜ってス
トレスになる。土曜の e ページと書評、隔週日曜の GLOBE、科学季評など読み物が多いのでこれだ
けで十分。地元紙は図書館で読む。



⑧ 高齢を生きる 極端な物忘れと足腰に痛みを感じ、罵られながらも何とか元気でおれるのは連れ合い のお陰と感謝しなければなるまい。 クロスバイクで下の街へ通うのに十七川の木陰を走る楽しみ の一方、旧県道でガードなしの農業水路に転落の危険がある。明日が不明のわが身である。

同期生の HP になじまないのを承知で身の近況を綴った。読み流していただければ幸いである。 (終)